

むすびめ通信

Musubime works for the better society

Bible:エペソ人への手紙4:16



湯本沙友里 ニュースレター

Vol.012 2021年9月発行



エチオピアの食事 インジェラ

いつも通信をご覧いただき、ありがとうございます。
前号に続いて今号は、エチオピアでのコロナ渦における期間限定支援として、2021年1月から開始した活動の経過をご報告いたします。

活動1

通学日数が減ってしまった子どもたちが、勉強を継続できるコミュニティ・スペース(補習校)運営。

子どもたちが勉強することができる居場所づくりとして、今年2月にエチオピアのメンバーと一緒にスタートした補習校には、7月までの約6か月間で、14歳～16歳の約20名の生徒たちが通ってくるようになりました。

活動地のアカコ村は、首都アジスアベバ市内ながらも、中心地から離れた山の中の不便な環境にあります。物や土地の価格が上がり住む場所を見つけるのが難しくなった人々が、安く家を借りられるアカコ村に移り住んできているそうです。しかし、そのような家庭の子どもたちは、自分の部族の言語で授業を行っている学校が近くにないため、バスで片道1時間以上かけて通学しなければなりません。バス代と家計を補うために放課後に仕事をして帰宅する子どもも少なくありません。コロナの影響を心配した家族は通学を控えさせ、家事や他の仕事を手伝わせるなど、勉強することから遠のいてしまう子どもたちも出てきていました。



活動報告(2021年2月～7月までの取組み)

●担当:デレジェ(職業:教師/専攻:機械工学)

■補習校のビジョンとミッションを設定。

【ビジョン】

普段通っている学校の授業が通常に戻るまで、この地域に住む子どもたちが勉強の意欲を失ったりドロップアウトしてしまったりしないようサポートする。英語を教えることで、広く国際的な視野をもって未来を描けるようにする。

【ミッション】

1. 子どもたちが好むような安全できれいな環境づくりをする。
2. 面白くて実用的な方法で英語の授業を教えていくこと。
3. 自分と国の未来のために、教育は大切だということの意識を高めていくこと。

●長年放置され不衛生で危険だった建物の内装・外装と庭を整備して、地域の子どもたちが行きたいと思えるような、安全に集える場所づくりをしました。

→支援期間が終わってからも使うことができる。

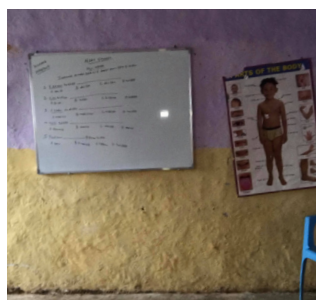
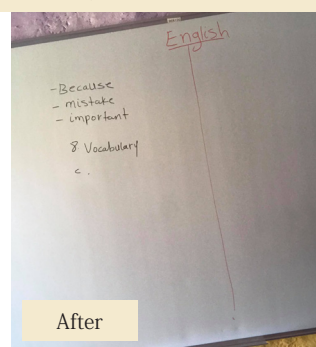
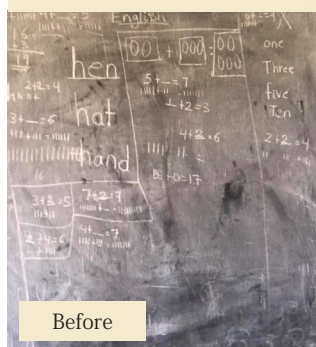
●毎月の予算内で必要な備品を購入し、足りない分は近隣の学校から借りるなどして揃えて、支援期間が終了した後もボランティアチームで運営を継続できる方法を考えました。

●補習校の案内を掲示板に張り出すだけでなく家庭訪問をしてお知らせしました。子どもだけでなく地域に住む方々ともコミュニケーションをとることで、デレジェ自身の人となりを知ってもらい信頼関係づくりを行いました。

●平日15時から17時まで解放し、ボランティア教師が英語を中心とした勉強を教えました。

●テスト期間前は、それぞれの苦手科目の勉強も教えました。…子どもたちは、学校以外でも勉強を教えてもらうために教師の家や食事中的のカフェにまで追いかけてくるほど、積極的に勉強をしていたそうです。

揃えた備品の一部



コンクリート壁をペイント(右写真の灰色部分が塗装前の壁)



机と椅子は、中古品を購入したり、勤務している学校から安く貸してもらったりして揃えた。



使用前の庭は廃材や岩などが散在していたため、遊び場として危険だった(子ども達の中には、きちんとした靴を履いていない子もいるので)。ワイヤー・釘などを含む細かい廃材や石・岩を取り除いて、自由に遊べるように整備した。



デレジェと、勤務する学校の生徒(7月に行われた終業式にて)。

活動2

仕事ができずにいるシングルマザー(1名)の仕事づくり。
(フライドポテト・オニオン販売の路上店舗の立ち上げ支援)

社会的に弱い立場にあった人が、コロナの影響によって更に困難な状況に追いやられてしまっています。今回私たちが関わることに決めた女性は子どもがいながらも夫を亡くしてしまい、仕事を得ることも難しくHIVも抱えています。他に頼れる人がいないために厳しい生活状況にある女性の状況を聞き、私たちは「仕事づくり」を通して、彼女の経済的自立の一步をサポートすることにしました。

活動内容と報告

●担当：テスファイ（職業：NGO スタッフ／看護師）

■女性と子どもの健康と社会事業を管轄する政府の部署が取りまとめている生活困窮者の名簿を元に、テスファイが何名かの家庭を訪問しました。本当に助けを必要としている人は名簿からだけではわからない、最も弱く傷を負いやすい人に手を差し伸べたい、というテスファイの意志を尊重して、動き方も彼に任せていました。2つの仕事を掛け持ちする合間をぬって週に1～2回ほど、約3カ月間かけて、複数名の方々とコミュニケーションをとりながら、手助けが必要な方を決めてもらい、プログラムを開始しました。

■玉ねぎとジャガイモの調理器具と揚物用の機材、電気を引くためのワイヤーなどを購入し、設備を整えました。

■家の前でフライドポテトの販売を開始すると、とてもよく売れていつも作った分だけ売れていきました。

■販売によって安定した収入を得ることができていましたが、その後油が高騰し始めました。彼女は社会的に不利な立場だったため油を購入するのが難しく、継続が難しくなってしまったといいます。別の種類の油などが手に入らなくなったら、また開始していけるだろうと考えています。



テスファイと、支援によって仕事を開始した女性。

日本とエチオピアで、初めての試みであったリモートでの協働を通して。

メンバー2人は10代のころから、ストリートチルドレンの保護活動に携わってきました。路上生活する子どもたちの生い立ちや性格に寄り添い、個性や特技を見つけて励まし、問題行動への対処やしつけを含む生活のサポートをしました。子どもたちと共同生活をしながら深く関わってきたので、弱い立場にいる人々を守って建て上げていくという視点が生活と人生の一部になっています。

その二人が行う今回のプロジェクトの計画、支援に対する考え方や、受益者の立場を配慮する慎重な姿勢とかかわり方、本業との両立など様々な側面から、私自身が学びを得る機会にもなりました。貧困層支援と仕事づくりの必要性が、絶えずあることが分かりました。

エチオピアを良くしたいと奮闘する仲間が、大きなビジョンを描きながら小さくてもできる行動を続けていること、意欲をもって働いている彼らの姿勢などを知ることができ、相互理解と信頼も一歩深まったことは感謝なことでした。

コロナ禍における期間限定支援ということで、9～10月ころまでの実施を予定していますが、必要を抱えた方の生活向上に少しでも役立つために、今後どのような計画と方法が適しているかを模索しているところです。

連絡先

湯本 沙友里 Sayuri Yumoto
Email: sayuri@karashi.net

支援のための寄付方法

支援をもってご協力くださる方はお手数ですが下記の口座にお振込みください。報告はニュースレターにて随時お知らせしますので、配信ご希望の方はご連絡ください。

①ゆうちょ振替口座 口座番号：00180-0-300201
名義：FVI

★通信欄に「湯本指定」とご記入ください。

②ゆうちょ振替口座 口座番号：00830-9-137685
名義：湯本沙友里
他行等から 店名：〇八九店 当座 0137685

支援金はどちらの口座も同様に、活動に関わる経費に充てられます。FVI名義の口座では、湯本が所属する非営利団体「声なき者の友」の輪を通して税理士より監査を受けて、年次報告いたします。ウェブサイト(karashi.net)から閲覧可能です。